

NO.79 2006

# 東海体育学会会報

東海体育学会

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 南山大学体育学教室内  
TEL.052-832-3110 (603) FAX.052-832-3703

[ホームページ] <http://wwwsoc.nii.ac.jp/tspe/> 学科事務局 [E-Mail] [tspe@htc.nagoya-u.ac.jp](mailto:tspe@htc.nagoya-u.ac.jp)

## 改善と改悪

東海体育学会会長 寺田 邦昭

久し振りに乗った地下鉄でのこと、斜め前に座っていた穴あきジーンズ姿の若い女性が、人目を憚ることなく、化粧に夢中の様子です。誰に会うために化けているのかは分かりませんが、その女性には周囲の人は全く眼中にない様子。以前は、服の綻びや人前での化粧は恥ずべき行為と戒められていましたが、核家族化が進み、人間関係が希薄になる中、知人や友人以外は石ころ同然で、何ら憚る必要なしと云った所でしょうか。過去の常識は現在の非常識と言われるほど、人々の意識はめまぐるしく変化している昨今です。

変るといえば、私たち学会員の多くが禄を食む「教育界」の環境も、最近大きく変化しています。例えば、青少年犯罪の多発や世の乱れ、学力の低下は学校教育の荒廃にあり、教育力の低い学校や、怠慢な教師は駆逐すべきとして、小中学校などの義務教育機関にも市場原理を導入して、競争社会を生み出そうとする動きが、急ピッチで進められています。各学校や教員の教育力を、児童・生徒・保護者らによる評価や、全国学力テストなどで数値化するとともに、それらをインターネットなどで公表し、学区制を撤廃して、子供たちに自由に学校を選ばせようとする試みです。少子化が進む中、評価の低い学校には児童・生徒が集まらなくなり、教員ともども淘汰されるのを狙った施策とも言えましょう。

勿論、怠惰な教育力の劣る教員を放置して良い筈は無く、解雇を含む厳しい対応は必要で、中教審の提唱する教員免許の更新制も頷けます。しかし、教育とは何か、何をもちて教育効果の尺度とするのかを曖昧にしたままでの、拙速な制度導入は、徒に、偏差値による学校の序列化や予備校化、学校格差の進行を加速させ、貧富の差を公教育の場に持ち込むことになりかねません。また、学区の崩壊に伴って、近隣児童の交友関係が希薄になり、地域力の低下や、登下校時における事件・事故の多発を招くのではと懸念されます。

加えて、年端も行かない教え子や、わが子を溺愛して止まない保護者たちによる「授業評価」や、

学校格差によって生ずる母集団の質を無視したテスト結果に依存する評価方法は、自虐的で、国家の品格ならぬ教師の品格をも無残に打ち壊し、師弟という信頼や尊敬などによって成立すべき教育環境を根本から損なってしまうのではと憂慮されます。

最近はまだ、改革を唱えぬもの人にあらずと言った風潮の中で、教育の構造改革を錦の御旗にした、競争主義・成果主義・査察主義・管理主義・公開主義などが、恰も問答無用の如く、教育現場へ導入されています。

従来、大学は、「大学の自治」のもと、社会と適度な緊張関係を保ちつつ運営されるべきものとされてきました。「学問の自由」についても然りで、「産学協同」は、大学を産業界に従属せしめ、墮落させるものとして忌避されてきました。そこでは「学問研究は、現在の真理や体制的理念に与することなく、それらを超越したより高次の知見を求めるべき」との主張が市民権を得ていました。しかし、それらの主張は「保守派」の戯言に過ぎず、投資に見合う成果を生む「産学官協同」こそが、学術研究の正道とされる昨今です。

また、周知の通り、グローバル化時代に備えての国際競争力向上のためと称し、「規制緩和と自己責任」の原則が大学にも導入されました。その結果、大学界では、少子社会の中で、一方では「環・国・人・情」学部や、医療・健康福祉系学部の増設ラッシュ、他方では定員割れ大学の続出と言う、弱肉強食の凄惨な事態が急速に拡大しており、生き残りを賭けた、研究・教育とは無縁の雑務も増加しています。メガバンクの誕生に象徴される金融業界での合併・再編劇が、高等教育機関を舞台に展開されるのも間近いのでしょうか。それとも、大店法の廃止と言う規制緩和によりシャッターを下ろした、商店街の二の舞を演ずることになるのでしょうか。商才とは無縁であった教育者集団に課せられた、競争原理に基づく教育構造改革は、果たして正しい方向へ向かうのか、不安を禁じ得ません。

冒頭で、過去の常識が現在の非常識と述べましたが、現在の常識もまた、未来永劫とは限りません。昨今の様に、価値観をも含めて変容の著しい時代に、東海体育学会の運営を委ねられました私ども役員一同、何が改善であり何が改悪であるのか、会員

の皆様方の声に真摯に耳を傾けながら、心して会務の遂行に当たって参りたいと考えています。学会の皆様方のご支援とともに、忌憚のないご意見を賜りますようお願い致します。

## 【総会・理事会報告】

# 2005年度 総会議事録

日 時：2005年10月30日 13時30分～14時30分  
場 所：愛知大学車道校舎  
司 会：村瀬智彦氏(愛知大学)

### 1.開会の辞

新井野大会実行委員長より開会の挨拶がなされた。

### 2.東海体育学会会長挨拶

寺田会長から挨拶がなされた。

### 3.当番大学挨拶

武田信照愛知大学学長より挨拶がなされた。

### 4.議長団選出

理事会より山本茂紀氏(愛知大学短期大学部)、斎藤由美氏(名古屋造形芸術大学)が推薦され、議長団として選出された。

### 5.議事

#### 1)東海体育学会会則改正

これまで東海体育学会入会の手続き時に入会金を徴収してきたが、事務手続きの煩雑さなどの理由から入会金を廃止する件について提案され審議された。審議の結果、平成18年度から入会金を廃止することで異議なく承認された。

#### 2)平成16年度事業及び決算報告

山本理事長より資料に基づき平成16年度の事業ならびに決算が報告された。なお、平成16年度決算報告については秋間広監事、來田享子監事より決算書が適正であることが認められていることが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

#### 3)平成17年度予算の修正

山本理事長より資料に基づき平成16年度繰越金確定に伴う平成17年度予算の修正について報告され、審議の結果、異議なく承認された。

#### 4)平成17年度事業報告(中間)

山本理事長より資料に基づき平成17年度事業について中間報告がなされた。

#### 5)平成18年度事業計画及び予算案

山本理事長より資料に基づき平成18年度事業計画および予算案が提案された。審議の結果、異議なく承認された。

#### 6)役員選挙

池上選挙管理委員長から、役員選挙に関して説明があり、会長、理事の投票が行われた。

開票の結果、次期会長として寺田邦昭氏が選出された。また、15名の理事が選出され、県選出の理事8名と合わせ、23名の次期理事が選出された。

#### ○会長選挙の結果

北川 薫:14票、島岡 清:8票、寺田邦昭:43票

(五十音順 敬称略)

#### ○理事選挙の結果

池上康男、石田浩司、種田行男、北川 薫、小林培男、庄司節子、高橋義雄、坪田暢允、中路恭平、秦 真人、藤井勝紀、村瀬智彦、山本英弘、吉田文久、來田享子

(五十音順 敬称略)

#### ○県選出理事

石垣 享、斉藤 満(以上愛知)、鶴原清志、八木規夫(以上三重)、春日晃章、杉浦春雄(以上岐阜)、酒井俊郎、吉田和人(以上静岡)

#### 7)第54回大会当番校について

第54回大会は岐阜聖徳学園大学で開催したい旨提案され、承認された。これを受け、第54回大会当番校を代表して、花井理事(岐阜聖徳学園大学)から挨拶がなされた。第54回大会は、岐阜聖徳学園大学(岐阜キャンパス)を会場に、平成18年11月26日(日)開催される予定であることが報告された。

#### 8)その他

東海体育学会顧問として昨年度推薦されていた、故加賀前会長を今年度の総会で顧問として追認する件について提案がなされた。審議の結果承認された。60年記念史編纂委員会の中間報告が行なわれた。

#### 6. 学術奨励賞の表彰

平成16年度学術奨励賞が寺田会長から、本田亜紀子氏(豊田工業高等専門学校)の「ジャンプトレーニング

が骨に与える影響は年齢によって異なる」に授与された。

#### 7. 議長団解散

斎藤由美議長から議長団の解散が宣言された。

#### 8. 閉会の辞

村瀬大会事務局長から、総会の閉会が宣言された。

(以上)

## 2005年度 理事会議事録

### 第1回理事会議事録

日時：平成17年1月29日(土)午後14時30分～16時10分

場所：南山大学名古屋キャンパスJ棟1階合同会議室

出席者：寺田(会長)、山本(理事長)、穂丸、石垣、石田、梅村、大桑、斉藤、酒井、島岡、高橋、鶴原、富岡、中路、秦、宮村、村瀬(以上理事)坂口(幹事)  
欠席者：池上、猪崎、稲村、國友、桜井、永田、新井野、花井、藤田、古田、八木、吉田、米川(以上理事)、秋間、來田(以上監事)

審議に先立ち、寺田会長の挨拶がなされた。その中で日本体育学会支部再編案について説明がなされた。

#### <報告事項>

1) 平成16年度事業報告について(平成16年度総会以降分)

##### 1. 庶務委員会(資料1)

理事会を欠席した池上庶務委員長に代わって、山本理事長から平成16年度第7回理事会議事録について説明がなされた。

##### 2. 会計委員会

監事が欠席のため、平成16年度の会計報告は次回理事会で行なうことが中路理事から報告された。

##### 3. 企画委員会

梅村理事から、バイオメカニクス分野の研究交流委員会主催(東海体育学会後援)の講演会が(平成16年12月11日)開催されたことが報告された。また、日本体育・スポーツ経営学会第28回大会(平成17年3月26日から同月28日開催予定)の基調講演を後援する予定であることが報告された。基調講演の詳細については、以下の通りである。

開催日時：2005年3月26日(土) 13:00～14:30

場所：南山大学名古屋キャンパス D棟DB1教室

テーマ：「勝つためのチームづくり」

司会：永田 靖章(岡崎女子短期大学)

演者：平尾 誠二(株式会社神戸製鋼所)

#### 4. 広報委員会(資料2)

特になし

#### 5. 学会大会委員会

特になし

#### 6. 編集委員会

大桑理事から、東海保健体育科学第26巻が発刊されたことが報告された。

#### 2) その他

特になし

#### <審議事項>

##### 1) 学術奨励賞選考委員会

大桑理事から、東海体育学会学術奨励賞選考委員会の選考結果が報告された。選考委員会の推薦を受けて、平成16年度の学術奨励賞候補者が決定された。今年度の東海保健体育科学への投稿が受理された段階で受賞者とし、表彰は今年度の学会大会で行うことが確認された。また、学会大会時に受賞者にスピーチを行ってもらう方向で検討することとした。学術奨励賞候補者へは、会長の指示によって選考委員会委員長から連絡することが確認された。

平成16年度東海体育学会学術奨励賞候補者

演題番号B-6番：本田亜紀子、「ジャンプトレーニングが骨に与える影響は年齢によって異なる」



## 2) 編集委員会

大桑理事より、東海保健体育科学への論文投稿後異動により転出した場合の投稿論文の取り扱いについて、審査、受理、掲載のいずれの時点において学会員であることが必要であるか検討して欲しい旨要請があった。審議の結果、投稿後に会員の異動があった場合でも、当該年度の会費を納入している場合には会員として認められることが了承された。

## 3) 平成17年度事業計画について

### 1. 次期東海体育学会会長、理事の選出(庶務委員会)

次期東海体育学会会長ならびに理事の選出を行なうため、選挙管理委員会の立ち上げを行なうこと、候補者選出のための投票は郵送によるものとするのが確認され、その準備を行なうことが庶務委員会の事業計画として承認された。

### 2. 会計委員会

特になし

### 3. 企画委員会

梅村理事から、平成17年度事業計画として、東海体育学会研究セミナーの開催、講演会の後援、研究交流委員会の開催、学術奨励賞受賞候補者の選考委員の派遣が事業案として提出され承認された。

なお、平成17年度の東海体育学会研究セミナーは、例年通り6月末に開催予定とし、昨年度のテーマ「健康づくりの運動を科学する」を今年度も引き続きテーマとして設定することが提案され承認された。詳細に付いては引き続き検討することとなった。また、東海体育学会が後援する講演会は、主として研究交流委員会が主催・後援する講演会とし、これについては企画委員会内での審議によって後援を決定するが、その他の講演会への後援依頼については、その都度理事会で審議することとした。

### 4. 広報委員会

今年度の事業として、東海体育学会会報78号は5月に発行の予定であることが報告された。また、HPの更新を計画しているが、詳細に付いては次回理事会で報告することとした。会報の内容の見直しについては、次回理事会で提案をすることが確認された。

### 5. 学会大会委員会

10月30日開催予定の学会大会にむけた事業計画が提案された。次回理事会で要綱案の審議をおこない、4月の理事会で要項を決定した後、学会会報の発送に合わせて演題募集の書類を作成することとした。6月以

降にシンポジスト等の決定、プログラム集発送の準備をおこない、大会前の理事会で座長、総会に関わる決定事項の確認を行なうこととした。

## 6. 編集委員会

編集委員会の事業計画として、東海保健体育科学第27巻を12月中旬に発刊することが提案され承認された。また、論文の投稿を活性化するために、E-mailを用いた論文投稿、学会誌以外の媒体を利用した論文投稿の呼びかけなどを検討していく予定であることが報告された。

## 4) その他

山本理事長から、昨年度提案があった東海体育学会会員の名簿作成に関わる問題を引き続き審議していくこと、日本体育学会代議員の東海体育学会理事会への参加方法などについて検討していくことなどが今年度の課題として提案された。

平成17年度理事会日程について、以下のように決定した。  
第2回 3月5日、第3回 4月23日、第4回 5月28日、第5回 8月27日、第6回 10月1日、第7回 10月30日

最後に日本体育学会の学会大会理事から送付されてきた「学会大会のあり方に関する提言」に対する回答について説明がなされた。

(以上)

議長:山本裕二理事長

書記:坂口俊哉幹事

## 第2回理事会議事録

日時:2005年3月5日(土)午後14時30分~17時00分

場所:南山大学名古屋キャンパスL棟9階合同会議室

出席者:寺田(会長)、山本(理事長)、穂丸、池上、石垣、梅村、島岡、鶴原、富岡、中路、永田、秦、藤田、宮村、村瀬(以上理事)坂口(幹事)

欠席者:猪崎、石田、稲村、大桑、國友、斉藤、酒井、桜井、高橋、新井野、花井、古田、八木、吉田、米川(以上理事)、秋間、來田(以上監事)

審議に先立ち、寺田会長の挨拶がなされた。

### <確認事項>

山本理事長から「平成17年度第1回理事会議事録(案)」の確認がなされた。修正なく議事録案は承認された。

### <報告事項>

特になし

## <審議事項>

### 1.会計委員会

中路理事から、1月26日に監事2名によって監査がなされた平成16年度決算について、報告がなされた。審議の結果、平成16年度決算書は承認された。繰越金確定にともなう平成17年度予算の修正については次回理事会で審議することとした。

### 2.広報委員会

会報78号の内容について審議された。審議の結果、理事会報告、海外研修報告、オリンピック・アテネ大会報告、研究室紹介、52回大会の報告、53回大会の案内などが掲載されることが承認された。原稿の依頼については、理事の推薦などを参考に決定することが確認された。また、発行時期は他の郵送物との関係から6月上旬を予定することとした。

平成17年3月31日で契約期間が終了するホームページ管理者との契約の継続について審議された。平成17年度も同業者と引き続き契約を継続することとして、平成18年3月31日までの期間を20,000円で契約を更新することが承認された。

### 3.企画委員会

梅村理事から、平成17年度の東海体育学研究セミナーのテーマと内容について説明がなされた。セミナーは、6月25日(土)に南山大学を会場に開催する予定であることが報告され承認された。また、内容については「健康づくりの運動を科学する」をテーマに、自然に親しむ野外活動や、レクリエーション活動に関連する内容で検討中であることが報告され承認された。講師については、今後決定し、第4回理事会(5月28日開催予定)に詳細を決定し会報と同報することで承認された。

### 4.学会大会委員会

富岡理事から資料に基づいて第53回大会の開催要項について、説明がなされた。発表時間などについて審議がなされ、開催要項の詳細については、審議で出された意見を参考に、学会大会委員会と当番校の間で決定し、次回理事会で報告することが確認され、第4回理事会(5月28日開催予定)で要項を決定し会報と同報することが承認された。

第54回大会の当番校については、岐阜県内の大学を候補として検討することが確認された。

### 5.庶務委員会

池上理事から、平成16年度に東海体育学会に転入会した会員数は28名であったことが報告され、審議の

結果28名の入会が承認された。

東海体育学会会長と理事候補者の選出について説明がなされた。理事定員数は会員数の1/25であることから、581名の会員数に対して23名が選出される事が確認された。選挙要項、投票用紙、返信用封筒を、会報と同封して郵送する件について提案された。審議の結果、選挙には細心の注意を払うことが必要であるため、郵送の方法については、次回理事会で決定することが了承された。

理事候補からは、2期重任者が除外されるため、2期重任者の定義について確認された。審議の結果、推薦役員についても選挙で選出された役員と同様の扱いとすること、2年に満たない任期で理事を務めた場合でも任期は1期とみなすことが承認された。また、選挙管理委員会は、監事2名を含む各委員会から1名ずつの理事で組織されることが確認された。

### 6.その他

関連学会からの後援依頼や関連情報を受け付ける体制について審議された。審議の結果、後援の依頼や関連情報の受け入れについては、広報委員長に申請し、広報委員会の判断で掲載可能な情報に関しては東海体育学会のホームページからリンクを張るようにし、後援等審議が必要な場合には従来どおり理事会で判断することとした。

(以上)

議長:山本裕二理事長

書記:坂口俊哉幹事

## 第3回理事会議事録

日時:2005年4月23日

場所:南山大学名古屋キャンパスL棟9階合同会議室

出席者:寺田(会長)、山本(理事長)、穂丸、池上、猪崎、石田、梅村、大桑、國友、斉藤、酒井、島岡、高橋、鶴原、中路、新井野、秦、花井、村瀬(以上理事)、來田(監事)

欠席者:石垣、稲村、桜井、富岡、永田、藤田、古田、宮村、八木、吉田、米川(以上理事)、秋間(監事)、坂口(幹事)

理事会開催に先立ち、4月19日に急逝された加賀秀雄前会長のご冥福を祈り、黙祷を行った。

その後、寺田会長から加賀前会長への追悼を含む挨拶をいただいた。

## <確認事項>

山本理事長から「平成17年度第2回理事会議事録(案)」

の確認がなされ、承認された。

## <報告事項>

### 1) 広報委員会

花井広報委員会委員長から、会報78号の編集状況について、研究室紹介2校、アテネオリンピック関連3件を含む原稿がそろい、印刷の段階に入っている旨報告された。これに関連して、この会報に加賀前会長のご逝去に際し、追悼の内容を載せることが提案され、審議の結果、寺田会長を中心に、写真も含め原稿を至急提出し、会報78号に掲載することが承認された。

### 2) 編集委員会

大桑編集委員会委員長から「東海保健体育科学第27巻」の編集状況に関して、現時点で奨励賞論文を含め2編の論文しかないことが報告された。

### 3) その他

池上庶務委員会委員長から、平成17年度東海体育学会役員名簿に関しては次回理事会で提出する旨報告があった。また、加賀前会長のご逝去に際し、東海体育学会から一對の供花をさせていただいた旨報告があった。

## <審議事項>

### 1) 企画委員会

#### (1) 研究交流委員会主催の講演会の後援について

梅村企画委員会委員長から資料に基づき、以下の2件の研究交流委員会主催の講演会の後援について提案があった。

(a) 体育史・スポーツ人類学分野(日本オリンピック・アカデミー東海支部との共催)の講演会の後援

テーマ：「1988年名古屋オリンピック大会招致を振り返る  
—今後のオリンピック・ムーブメントに向けて—」

講師：藤瀬 兼 男 氏(元中京大学教授)

(当時の役職:愛知県教育委員会指導監兼名古屋オリンピック招致委員会事務局長)

日時：平成17年5月14日(土)午後1:00～3:00

場所：中京大学 名古屋キャンパス 11号館

4階 第1会議室

#### (b) 運動生理学分野主催の講演会の後援

セミナータイトル：“Exercise limitations: the role of respiratory muscle work and gas exchange”

演者：Dr. Craig Harms (Department of Kinesiology, Kansas State University)

日時：平成17年5月16日(月)午後5時半～7時

場所：名古屋大学総合保健体育科学センター・会議室

審議の結果、2件とも後援を行うことが認められ、体育史・スポーツ人類学分野に関しては来田監事が、運動生理学分野に関しては石田理事が、会員への周知のため庶務委員会と企画委員会に要項を送付し、庶務委員会では名簿として掌握しているメールアドレスリストを通して、また企画委員会では各研究交流委員のメールアドレスを通して情報を流すことで了解された。また学会ホームページへの掲載あるいはリンクに関してはそれぞれで広報委員会に情報を送付することとした。

### (2) 東海体育学会研究セミナーについて

梅村企画委員長から資料に基づき、平成17年度の東海体育学会研究セミナーの演者決定の報告があり、これを承認した。各演者のテーマや司会等についての決定は次回理事会あるいはそれまでのメール回議で行い、会報の発送に案内を同封することが確認された。

### 2) 学会大会委員会

村瀬理事から資料に基づき、「東海体育学会第53回大会および総会(選挙)のご案内」について提案があった。審議の結果、研究発表申込書はweb上で公開し、全会員には送付せず会員からの請求に応じて大会事務局から発送することとした。また発表時間に関しては1演題20分とし、発表時間は10～15分と演者に任せることで了承された。その他詳細についてはweb上での案内となり、これらは前回大会までの要領を踏襲することから、次回理事会までに各理事が前回大会までの要領等を閲覧し、次回理事会で要綱等の決定を行うこととした。なお、この要項も会報に同封することから、必要に応じてメール回議で検討することとした。

### 3) 庶務委員会

池上庶務委員長から資料に基づき、次期役員選挙の手續きについて提案があった。審議の結果、提案どおりの手續きで行うことが了承された。被選挙人名簿に関しては、所属等明らかな間違い等があるものの、日本体育学会の名簿に則するものとし、今後会員に対して所属変更等の申し出をお願いすることとした。さらに、この役員選挙にかかわる選挙要領、被選挙人名簿、投票用紙等は一つの別の封筒に厳封し、会報と同封することで承認された。

また、会員からのメールアドレスの登録や所属変更等の修正に関するお知らせを別紙として会報に同封することが提案され了承された。

### 4) 編集委員会

大桑編集委員会委員長から「東海保健体育科学第

27巻」への投稿論文が少ないことから、5月末までをめぐりに投稿への協力を各理事の先生にお願いする旨提案があり、了承され積極的に会員に働きかけることとした。

#### 5) その他

##### (1) 第45回トレーニング科学会カンファレンスの後援について

山本理事長から資料に基づき、池上康男先生(名古屋大学)から後援の依頼のあったことが報告され、審議の結果了承され後援することとした。

##### (2) 選挙管理委員会委員の選出について

池上庶務委員会委員長から、次期役員選挙の選挙管理委員会の選出について、次期役員選挙で被選挙権のない理事を委員として選出する案が提案され、審議の結果、今の会則の範囲内で、各委員会に次期役員選挙の被選挙権のない理事がある場合には、その理事を選挙管理委員として推薦してもらうこととし、次回理事会までに各委員会から委員を推薦してもらうことで了承された。

(以上)

議長:山本裕二理事長

書記:坂口俊哉幹事

### 第4回理事会議事録

日 時:平成17年5月28日(土)午後14時30分~16時00分

場 所:南山大学名古屋キャンパスL棟9階合同会議室

出席者:寺田(会長)、山本(理事長)、稚丸、池上、石田、稲村、梅村、大桑、斉藤、桜井、鶴原、富岡、中路、秦、村瀬、吉田(以上理事)、来田(監事)、坂口(幹事)

欠席者:猪崎、石垣、國友、酒井、島岡、高橋、永田、新井野、花井、藤田、古田、宮村、八木、米川(以上理事)、秋間(監事)

理事会開催に先立ち、寺田会長から挨拶をいただいた。

#### <確認事項>

山本理事長から「平成17年度第3回理事会議事録(案)」の確認がなされ、承認された。

#### <報告事項>

##### 1) 広報委員会

花井理事に代わって山本理事長から会報78号の進捗状況について、説明がなされた。700冊の印刷が終了し、6月第1週に発送の予定であることが報告された。

##### 2) 編集委員会

「東海保健体育科学第27巻」の編集状況について、大桑理事から説明がなされた。これまでに4編の投稿が

あり、2編については1回目の査読が終了していることが報告された。

##### 3) 企画委員会

研究交流委員会主催の講演会について報告がなされた。

##### (1) 体育史・スポーツ人類学分野(日本オリンピック・アカデミー東海支部との共催)

5月14日に中京大学で開催された講演会について来田監事から報告がなされた。

##### (2) 運動生理学分野主催の講演会の後援

5月16日に名古屋大学で開催された運動生理学分野主催の講演会について報告がなされた。

##### (3) 東海体育学研究セミナーについて

梅村理事から、平成17年度研究セミナーについて報告がなされた。テーマは「健康づくりの運動を科学する~自然を活用して健康になる~」をテーマにセミナーを開催する予定で準備を進めていることが報告された。ポスターはメーリングリストを通じて、理事に配布する予定であることが報告された。

##### 4) 庶務委員会

##### (1) 平成17年度東海体育学会役員住所録について

池上理事から、平成17年度東海体育学会役員住所録について説明がなされた。役員名簿に掲載されている加賀秀雄先生(顧問)については今年度の総会で承認の予定であることが報告された。

##### (2) 会報第78号の発送について

会報第78号と同時に、「東海体育学研究セミナー開催要項」、「東海体育学会第53回大会および総会(選挙)のご案内」、「庶務委員会からのお願い」と「平成18年度理事選挙に関わる書類」を発送することが報告された。

会報は会員数579名に、選挙要項は学会顧問4名を除く575名に対して6月上旬に発送の予定であることが報告された。

##### (3) 「セミナー開催案内」掲載の依頼について

朝日新聞、中日新聞、毎日新聞、読売新聞の4社に「セミナー開催案内」の掲載依頼を郵送したことが報告された。

##### (4) その他

特になし

#### <審議事項>

##### 1) 学会大会委員会

##### (1) 第53回大会について

村瀬理事から第53回大会準備の進捗状況について説明がなされた。シンポジウムの内容などの詳細につい



ては8月の理事会で報告し審議する予定である。なお、大会要項については、理事会メーリングリストで審議の結果承認されている。

#### (2) 第54回大会の開催校について

第54回大会は、岐阜県内での開催を前提に開催校を検討してきたが、岐阜聖徳学園大学で開催することで内諾を得ていることが報告された。審議の結果、岐阜聖徳学園大学で開催することで承認された。必要に応じて、開催校から会長推薦理事を選出することが承認された。

#### 2) 庶務委員会

池上理事から、選挙管理委員会の設置について説明がなされた。選挙管理委員会は各委員会の委員長と2名の監事によって構成されることで承認された。開票作業は8月上旬に開催予定の選挙管理委員会で行なう予定であることが確認された。

#### 3) 会計委員会

中路理事から平成16年度繰越金確定に伴う、平成17年度予算の修正について説明がなされた。審議の結果、予算の修正が承認された。

#### 4) 研究会の後援について

2005年7月2日から3日に開催予定の、「日本スポーツとジェンダー研究会 第4回大会」について来田監事から説明がなされ後援の要請が行なわれた。後援の形態について審議された結果、東海体育学会の名義を後援団体として使用することを認めることで承認された。

後援名義の形態とその詳細については、今後企画委員会を中心に継続して審議することとする。

#### 5) その他

学会大会における学術奨励賞受賞者の表彰式において受賞者から3分程度の挨拶を行なってもらうことが確認された。受賞者への案内は庶務委員会から行なうことが確認された。

(以上)

議長:山本裕二理事長

書記:坂口俊哉幹事

### 第5回理事会議事録

日時:平成17年度8月27日(土)14時30分~16時50分

場所:南山大学名古屋キャンパスL棟9階合同会議室

出席者:寺田(会長)、山本(理事長)、穂丸、池上、石垣、梅村、大桑、酒井、島岡、高橋、鶴原、富岡、中路、新井野、秦、花井、藤田、(以上理事)、秋間(監事)、坂口(幹事)

欠席者:猪崎、石田、稲村、國友、斉藤、桜井、永田、古田、宮村、村瀬、八木、吉田、米川(以上理事)、来田(監事)

理事会開催に先立ち、寺田会長から挨拶をいただいた。

#### <確認事項>

山本理事長から「平成17年度第4回理事会議事録(案)」の確認がなされ、承認された。

#### <報告事項>

##### 1) 広報委員会

学会ホームページの更新について報告がなされた。会報をPDF形式のファイルとしてアップロードしたことなどが報告された。

##### 2) 編集委員会

大桑理事から「東海保健体育科学第27巻」の編集状況について報告がなされた。現在、1編が掲載可、2編が審査中であることが報告された。また、総説の出筆者として、中京大学の菊池秀夫先生に依頼していることが報告された。

##### 3) 企画委員会

今年度の研究セミナーが6月25日に南山大学で開催されたことが報告された。また同日、研究交流委員会が開催されたことが報告された。

##### 4) 庶務委員会

日本体育学会名誉会員の推薦について報告がなされた。日本体育学会から、東海支部の候補として3名の会員について問合せがあり、この3名について東海体育学会から推薦したことが報告された。なお、名誉会員の選考については日本体育学会で行なわれる。

##### 5) 選挙管理委員会

平成17年8月11日に行なわれた選挙管理委員会について資料1に基づき報告がなされた。開封・開票の結果、575通の発送に対して121通(21.04%)の返信があったことが報告された。会長選挙については、得票数の多い順に3名を候補者とし、今年度の総会で選挙を行なう、理事については、得票数の多い順に、各県から2名(計8名)を選出した。残りの15名については、得票数の多かった上位30位(末位のものが同得票数のため34名)を候補者として、今年度の総会当口に選挙を行なうことが報告された。

##### 6) その他

特になし

#### <審議事項>

##### 1) 学会大会委員会

新井野理事から、資料2に基づき第53回大会の準備状況について説明がなされた。

当日スケジュールのうち、研究発表の時間については演題数によって若干の変更が考えられるが、その他については提案通りに進めることで承認され、当番校の学長挨拶を総会でしていただくよう依頼することとした。

「一般研究発表」の名称を「研究発表」とする件について審議された。審議の結果今回は「研究発表」の名称に変更することで承認された。

現在の申込演題数が少ないことから発表申込期間の延長について審議され、9月10日まで締めきりを延期することが承認された。また、シンポジウムの内容と詳細に関しては、プログラムの印刷に入る前に理事会メーリングリストによるメール回議により承認することとした。またシンポジウムを一般に公開することが提案され、審議の結果承認された。

学会協賛・広告掲載企業の広告を学会ホームページに掲載する件について審議された。日本教育シューズ協議会とミニミニ企画については、東海体育学会に対して援助をいただいているため、学会大会のプログラムに広告料は別には徴収せずに掲載することが確認された。また、学会大会のプログラムに記載された協賛企業名については、学会開催日まで学会ホームページの学会大会のところで掲載することで承認された。また、その他ホームページの内容や活用方法については、広報委員会を中心に今後検討することとした。

## 2) 企画委員会

「後援」の扱いについては、次回理事会で検討することとした。

## 3) 庶務委員会

### ・東海体育学会第53回大会について

第53回大会、総会次第について資料1に基づき審議された。議事の5番目に会則改正を入れ、6番目に役員選挙、7番目に第54回大会当番校についてとし、8番目のその他で顧問の追認と60周年記念史編纂委員会が追加された。また、議長団の解散前に学術奨励賞の表彰を行い、受賞者に短いスピーチを依頼することとした。その後休会とし、シンポジウム終了後、役員選挙結果の発表を行い、その後に議長団解散を行うこととした。これらの修正点が確認され了承された。

平成18年度事業計画(案)について審議され、少し具体的な内容を盛り込む方向で検討した方がよいという意見が出た。

### ・東海体育学会入会金について

東海体育学会会則第27条に基づいて徴収している入会金を廃止する件について審議された。入会金の廃止には会則の変更が必要となるため、17年度総会で審議されることで了承され、次回理事会で会則改正案を新旧対照表の形で提案していただくこととした。

## 4) その他

特になし

(以上)

議長:山本裕二理事長

書記:坂口俊哉幹事以上

## 第6回理事会議事録

日 時:平成17年度10月1日(土)14時30分~17時00分

場 所:南山大学名古屋キャンパスL棟9階合同会議室

出席者:寺田(会長)、山本(理事長)、池上、石田、大桑、斉藤、島岡、高橋、鶴原、中路、永田、新井野、花井、宮村、村瀬(以上理事)、秋間(監事)、坂口(幹事)

欠席者:穂丸、猪崎、石垣、稲村、梅村、國友、酒井、桜井、富岡、秦、藤田、古田、八木、吉田、米川(以上理事)、來田(監事)

理事会開催に先立ち、寺田会長から挨拶をいただいた。

## <報告事項>

### 1) 編集委員会

大桑理事から「東海保健体育科学第27巻」の編集状況が報告された。論文3編が印刷中、2編が審査中であり、新たに1編の投稿があったことが報告された。

本年度の学会大会では特別講演がないため、第27巻に特別講演の掲載はないことが報告された。

### 2) 庶務委員会

池上理事から、特別共同研究者の登録および参加費支払状況について報告がなされた(資料1)。2件(計5名)の申請があり、理事会ML上の審議によって申請は承認されたことが報告され、参加費の支払は完了していることが報告された。

第53回東海体育学会演者および共同研究者の会費納入状況について報告がなされた。現在6名の会費未納者がいるが、すでに請求の手続きを行ない会費納付待ちであることが報告された。なお、日本体育学会会員については、本部事務局からの口座引き落とし(今回は11月12日)を待たなければならないが、学会発表については受けつけることが報告された。

第53回東海体育学会奨励賞対象者が6名であるこ

とが報告された。

東海体育学会の顧問に対して、学会大会の連絡を行なったことが報告された。

### 3) 選挙管理委員会

池上理事から、資料1に基づいて東海体育学会役員を選出について資料説明がなされた。選挙に関する書類は学会抄録集と同封して郵送することが報告された。

総会における「会長および理事」の選出について説明がなされた。会長選挙において、1位の候補が過半数を超えず、他の2名の得票数が同数となった場合、2・3位の決定は抽選によって行なうものとし、1、2位両名で決選投票を行なうことが確認された。

### 4) 東海体育学会60年記念史編纂委員会

山本理事長から、秦理事からの資料(資料2)に基づいて東海体育学会60年記念史編纂委員会の進行状況について報告がなされた。編纂委員会の立ち上げについて、今年度の総会で報告することが確認された。

### 5) その他

#### ・第54回大会について

花井理事から、第54回大会について説明がなされた。第54回大会実行委員長は三井淳蔵先生とし、会場は岐阜聖徳大学(岐阜キャンパス)で開催予定であるが、開催日は10月29日(日)と11月26日(日)のいずれかを候補として検討されていることが報告された。

## <審議事項>

### 1) 学会大会委員会

新井野理事から、第53回大会準備の進行状況について説明がなされた(資料3)。

一般発表の座長について審議された。審議の結果、座長については原案通りで承認された。

所属機関が明確でない発表者の所属機関の記載方法について審議された。審議の結果、本人の申請通りに記載することで了承された。

シンポジストへの謝金等の支払とその金額について審議された。シンポジストは、すでに日本在住者2名、海外在住者1名で決定している。学会の申し合わせでは、海外からのシンポジストに関する旅費等の取り決めはないが、今回は海外からのシンポジストに対しては宿泊費を支払うことが承認された。なお、他のシンポジストに対しては、規定通りに支払うことが了承された。

総会議長候補として、学会大会委員会から山本茂紀先生(愛知大学短期大学部) 理事会からは、斎藤由美先生(名古屋造形芸術大学)が推薦された。審議の

結果承認され、本人へは理事会への出席を依頼することが確認された。

学会大会の情報を、学会ホームページへ掲載する場合の掲載内容とその保存について審議された。審議の結果、第53回大会の抄録については、掲載することとし、その他保存内容や保存期限など詳細については次期の理事会で審議することが確認された。抄録集については、800部程度の印刷を行なうことが承認された。

### 2) 編集委員会

大桑理事から、学会発表の演題を東海保健体育科学に掲載する時期について提案がなされた。審議の結果、学会発表の演題は当該年度の東海保健体育科学に掲載することで承認された。

### 3) 企画委員会

村瀬理事から、学会奨励賞選考委員として、穂丸先生、梅村先生、斎藤先生、高橋先生、の4名を選出したことが報告された。審議の結果承認された。

資料4に基づき、講演会・シンポジウムなどの後援形態について提案がなされた。審議の結果、10月20日をめどに理事会メーリングリストで意見交換を行ない、次回理事会で審議することで了解された。なお、決定事項については、次期理事会への送り事項とすることが確認された。

### 4) 庶務委員会

池上理事から、東海体育学会第53回大会総会資料について説明がなされた(資料1)。総会での審議が予定されている東海体育学会会則改正について説明がなされ、改正後の会則は東海保健体育科学に掲載することが提案された。審議の結果承認された。

資料に基づき、中路理事から平成17年度予算の途中経過と、平成18年度予算案について説明がなされた。本年度の総会において、入会金廃止の審議があるため、平成18年度予算案の収入については、修正が必要となる可能性があることが確認された。

### 5) その他

第54回大会当番校からの会長推薦理事として竹本康史先生(岐阜聖徳大学経済情報学部)を推薦することについて審議された。審議の結果承認され、平成17年12月31日までの会長推薦理事として委嘱することとし、来年度に関しては新たに会長推薦理事として委嘱するよう次期会長へ申送ることとした。

日本体育学会本部から依頼があった「学会支部の活性化・再編に関する検討のお願い」への回答について審議された。審議の結果理事会メーリングリストで意

見を収集することが承認された。

山本理事長から、今年度の理事会から次期理事会への送り事項を各委員会でまとめ、次回理事会で審議することが提案され、承認された。

(以上)

議長:山本裕二理事長

書記:坂口俊哉幹事

## 第7回理事会議事録

日時:平成17年度10月30日(土)12時30分~13時30分

場所:愛知大学車道校舎K1002

出席者:寺田(会長)、山本(理事長)、穂丸、池上、猪崎、石垣、石田、稲村、梅村、大桑、斉藤、酒井、島岡、高橋、鶴原、富岡、中路、永田、新井野、秦、花井、藤田、古田、村瀬、八木、(以上理事)、秋間、來田(監事)、坂口(幹事)

欠席者:國友、桜井、宮村、吉田、米川(以上理事)

理事会開催に先立ち、寺田会長から挨拶をいただいた。

### <報告事項>

#### 1) 庶務委員会

・第53回東海体育学会への顧問の出席

池上理事から3名の顧問が出席していることが報告された。

・第53回東海体育学会演者および共同研究者の会費納入状況

前回の理事会開催時点では6名の会費未納者がいたが、日本体育学会の会員1名を除き5名からの会費納入があったことが報告された。日本体育学会の会員については、本部から口座引落が行なわれることを通知したことが報告された。

・特別共同研究者の登録状況

特別共同研究者として5名の申請があり、全員登録手続きが完了していることが報告された。

・東海体育学会第53回大会参加者

東海体育学会第53回大会午前中の研究発表には学会員87名、当日会員2名、学生10名の合計99名の参加者があったことが報告された。

・平成16、17年度の理事会出席状況の報告

平成16、17年度の理事出席状況について報告がな

された。

#### 2) その他

会員名簿の管理を行なうためにデータベースアプリケーションソフトの購入を検討していることが報告され、購入することが了承された。

### <審議事項>

#### 1) 学会大会委員会

・第54回大会について

花井理事から、第54回大会の開催日が18年11月26日(日)に決定されたことが報告された。会場は、岐阜聖徳学園大学(岐阜キャンパス)とし、同大学の教員7名に近隣大学の教員若干名を加え実行委員会を組織することが報告され承認された。また、会長推薦理事として竹本理事が紹介された。

#### 2) 庶務委員会

・東海体育学会平成17年度総会次第について

平成17年度総会次第について審議された。全体の司会は村瀬理事が行なうこと、当番大学挨拶は竹田信照愛知大学学長が務めること、議事報告は山本理事長が務めることが報告され承認された。

会長および理事選挙の方法については選挙管理委員会から行なうことが報告され承認された。議事の最後に、加賀先生の顧問就任に対する追認と、60周年記念史編纂委員会の進行状況について報告を行なうことが確認された。

・役員選挙運営について

理事候補になっている現理事は選挙管理から外れるため、投票用紙の配布には坂口幹事が加わることが承認された。

#### 3) その他

次期理事会への送り事項については、理事会メンバーリングリストを通じて行なうことが提案され、審議の結果承認された。11月末までを期限として各委員会の送り事項を理事長に集約することとした。

最後に、山本理事長からあいさつが行なわれた。

(以上)

議長:山本裕二理事長

書記:坂口俊哉幹事



## 企画委員会活動報告

企画委員会委員長 梅村義久

平成17年度の企画委員会は第52回東海体育学会総会で承認された活動方針に基づいて、下記の事業を展開しました。ご協力をいただきました多くの関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

### 1. 東海体育学研究セミナーの開催

日時：2005年6月25日(土)15時～17時

場所：南山大学 D棟DB1教室

テーマ：「健康づくりの運動を科学する  
～自然を活用して健康になる～」

司会：穂丸武臣氏(名古屋市立大)

講演1. 「自然環境下で行なう身体活動と運動強度」

松井健氏(日本福祉大)

講演2. 「心理学の側面からみた野外活動」

叶俊文氏(皇學館大)

講演3. 「野山に親しむストックウォーキング」

富岡徹氏(名城大)

### 2. 研究交流委員会の開催

日時：2005年6月25日(土)13時30分～14時30分

場所：南山大学体育センター内の視聴覚教室

### 3. 研究会、講演会などの後援

①研究交流委員会(体育史・スポーツ人類学分野)が  
開催した講演会の後援(日本オリンピック・アカデミー  
東海支部との共催)

テーマ：「1988年名古屋オリンピック大会招致を振り返る  
～今後のオリンピック・ムーブメントに向けて～」

講師：藤瀬兼男氏(元中京大学教授)

日時：2005年5月14日(土)13時～15時

場所：中京大学 名古屋キャンパス 11号館 4階  
第1会議室

②研究交流委員会(運動生理学分野)主催の講演会  
の後援

テーマ：”Exercise limitations: the role of respiratory  
muscle work and gas exchange”

演者：Dr. Craig Harms (Department of  
Kinesiology, Kansas State University)

日時：2005年5月16日(月)17時30分～19時

場所：名古屋大学総合保健体育科学センター・会議室

③日本トレーニング科学会が主催する第45回日本トレーニング科学会カンファレンスの後援

テーマ：「健康・スポーツ科学の成果を現場に生かす」

司会 杉田正明氏(三重大学)

演者1：「動きを生み出す練習環境-ダイナミカルシステム  
理論から-」山本裕二氏(名古屋大)

演者2：「健康づくり研究のエビデンスを行政の保健福祉  
事業で活用するには」種田行男氏(中京大学)

演者3：「膝関節手術や身体不活動による筋萎縮と  
リハビリへの指針」秋間広氏(名古屋大)

日時：2005年6月18日(土)14時～16時

場所：名古屋大学 野依記念学術交流館1階

④日本スポーツとジェンダー研究会主催の第4回大会の後援

日時：2005年7月2日～3日

場所：中京大学名古屋キャンパス

### 4. 東海体育学会学術奨励賞候補者選考

学術奨励賞選考委員会に企画委員会から4名の委員を派遣し、東海体育学会第53回大会において学術奨励賞候補者を選考した。

5.研究交流委員会活動報告(2006年6月10日到着分までを掲載)

#### 体育史・スポーツ人類学分野の活動報告

報告者：來田亨子(中京大学)

今年度の上半期は、新規メンバーによる報告会のほか、他組織の取組みに積極的に参加した。1月または3月の開催を予定していた報告会は、構成員の日程調整が困難であったため、やむを得ず次年度に開催することを決定した。

今年度の活動一覧は下記のとおりであった。

(1)2005年5月14日(土)(13:00-15:00)

JOA東海支部企画への参加

講演テーマ「1988年名古屋オリンピック大会招致を振り

返る—今後のオリンピック・ムーブメントに向けて—

講師：藤瀬 兼 男 氏(元中京大学教授)

場所：中京大学 名古屋キャンパス11号館4階  
第1会議室

(2) 2005年6月4日(土) (15:00-17:00) 研究報告会  
報告テーマ「幕末における 武術廻国修行の実態  
旅日記と交遊録について」

報告者：村 林 正 美 氏(愛知文教大学)

会場：中京大学名古屋キャンパス 11号館4階  
第1会議室

(3) 2005年7月2日(土) 日本スポーツとジェンダー研究会  
企画への参加

①講演(13:00-15:00)

テーマ「身体史からスポーツを考える—性差はどのよう  
に語られてきたか—」

講師：萩 野 美 穂 氏(大阪大学大学院助教授)

②パネルディスカッション(15:20-18:00)

テーマ「スポーツにおける多様な身体 — 一つの尊重を  
求めて—」

(4) 2005年10月9・10日 スポーツ史学会への参加

会場：名古屋市内ルブラン王山

(5) 2005年10月30日(日) 東海体育学会への出席(愛知  
大学 車道校舎)

### 運動生理学分野の活動報告

報告者：石田浩司

(名古屋人学総合保健体育科学センター)

これまで主だった活動を行っていなかった運動生理学分野ですが、2005年度は外国人招聘セミナーを開催することができました。今回はそのセミナーについて簡単にご報告致します。

「運動と呼吸」に関する世界的な権威者であるボストンのDr. J. A. Dempseyのお弟子さんの、Dr. Craig A. Harmsが5月に東京で開催された「アジアスポーツ医科学会議」に参加するために来日され、学会終了後に筑波大学・神戸大学で講演を行われ、その帰りに名古屋にも立ち寄って頂き、5月16日夕方に名古屋大学の総合

保健体育科学センター会議室でセミナーを開催致しました。氏はKansas State Universityで、「運動の制限因子と呼吸・循環機能」について、例えば最大に近い運動では、呼吸筋が疲労しないよう、他への血流を奪って(steal)、呼吸機能を維持しようとしているなど、ユニークな研究を精力的に進めておられます。当日は“Exercise limitations: the role of respiratory muscle work and gas exchange.”というタイトルで興味深い研究をいくつも紹介して頂きました。このセミナーは東海体育学会の研究交流委員会企画として援助を頂いた関係で、他の分野の方も参加されるということもあり、途中で区切って名古屋大学の片山敬章先生に日本語で要約してもらいました。参加者は20名程度でしたが、活発な討論も行われ、予定の時間を30分も超過してしまうほどでした。終了後、関係者で「ひつまぶし」をHarms夫人ともども食し、世間話に花を咲かせました。氏は非常に気さくな紳士で、日本が気に入られたご様子でした。翌日は片山先生の案内で名古屋観光をされ(ほとんどがみやげ物探し?)、次の日に帰国の途につかれました。このように研究だけでなく、いろんな面で日米の交流を深められた、非常に有意義なセミナーだったと思います。

お金の関係でなかなか単独で大物外国人を名古屋に呼ぶことはできませんが、他の地域の先生とも協力して、今後も機会があればいろんな人をお呼びしたいと思います。皆様の参加をお待ちしております。また、外国人研究者等呼んで講演会・セミナーを開催される機会がありましたら、研究交流委員会の方で多少の援助ができますので、一度ご連絡下さい。



## 発育発達・測定評価分野の活動報告

報告者：藤井勝紀(愛知工業大学)

### 【2005年度、東海発育発達測定評価分科会企画研究会について】

研究会テーマ：「幼児の骨密度と体脂肪の測定について」

以上の研究会テーマについて、3回の研究会を開催しました。

#### <第1回目>

日時：平成17年8月9日、13時30分～

場所：浜松学院大学住吉キャンパス

参加者：穂丸武臣、花井忠征、酒井俊郎、正美智子、村瀬智彦、石垣享、小栗和雄、藤井勝紀

内容：10月22日、浜松において幼稚園協会主催のフェスティバルで測定を実施する際の準備や問題点等が議論され、さらに、骨密度、体脂肪についての従来までの様々な知見について議論が展開された。特に骨密度については、幼児、児童期の横断的なデータからピークボーンマスを導くことを目的と考えた。しかし、この点について、現在使用している骨密度測定器ではSOS (Speed of Sound)しか測定できず、BUA (Broadband Ultrasound Attenuation)を測定しないとステイフネス係数が算出されないため、目的達成が難しいかもしれないという結論になった。

しかし、測定の実施は重要であるので、たまたま花井先生がご自分の関係している幼稚園で測定をする機会があるということで、第2回目の研究会は我々の測定研修を兼ねて、花井先生にご迷惑をおかけすることになった。

#### <第2回目>

日時：平成17年9月16日、9時～

場所：岐阜県恵那市城ヶ丘保育園

参加者：穂丸武臣、花井忠征、酒井俊郎、石垣享、川添公人、藤井勝紀

内容：9時から実際の測定が開始された。骨密度、体脂肪、フリッカーテスト、フットプリント等の測定が行われ、園児の大半の測定が完了した。花井先生の根回しのお陰で、随分スムーズに測定が行われ、データも多く得られた。午後から保育園の先生達との座談会が開かれ、保育園での現場で起こるいろいろな問題が話された。現場へのフィードバックができれば、我々としても有り難いことであり、非常に有意義な議論が出来たと思われる。(花井先生には本当に貴重な場を与えていただき感謝しています。)

#### <第3回目>

日時：平成17年10月22日、10時～

場所：浜松市体育館

参加者：穂丸武臣、酒井俊郎、石垣享、小栗和雄、藤井勝紀

内容：フェスティバルの会場の一角に、東海発育発達測定評価分科会企画で骨密度、体脂肪を計ると言う横断幕を掲げ、スタートした。当初、想像した以上に盛況となり、測定の方も休む暇なく午後3時頃まで続いた。酒井先生にほとんど準備していただき、随分今回の測定もスムーズに行った。今回の測定で特に期待出来る点は、子どもとその親の関係が解析出来る点である。このようなデータはなかなか収集できないので、非常に貴重な知見が得られると思う。データ数も300近く収集できたと思われる。(酒井先生には本当にすべて準備からお世話になり、貴重な体験ができたことを感謝します。)

## 編集委員会活動報告

編集委員長 大桑哲男

1. 「東海保健体育科学(第27巻)」を平成17年12月に発刊した。掲載内容は原著論文4編(1編は学術奨励賞論文)と資料1編であった。予定していた総説は執筆者の都合により掲載できなかった。
2. 学会開催時に「東海体育学会学術奨励賞」選考委員会(広報委員会から推薦された委員と編集委員会委員から構成)を開き、平成17年度の東海体育学会学術奨励賞受賞候補者を選考し、理事会に推薦した。
3. これまで「東海保健体育科学」に前年度の学会発

表の演題を掲載してきたが、今年度から発表された演題はその年発刊の雑誌に掲載することとした。

4. 投稿しやすくするため、投稿から発刊までの迅速化、編集業務に関わる費用節約のために電子メールを用いての投稿・査読を検討してきたが結論は得られず、次期編集委員会で引き続き検討して頂くよう申し送りをした。
5. 理事会にて「東海保健体育科学」への論文投稿数と審査状況を報告し、また会報とホームページを通じて多くの会員に論文を投稿して頂くようお願いした。

## 広報委員会活動報告

広報委員会委員長 花井忠征

平成17年度の広報委員会の活動は、ホームページの管理運営及び会報の発行とホームページへの公開を行った。

学会ホームページの管理運営は、昨年度に引き続きNPO法人パソコン丸ごとアシストに委託をして

行った。更新作業は、随時順調に行われた。

会報は、平成17年6月に78号を発行した。発行にあたっては、株式会社ミニミニ様より印刷費の援助をいただいた。また、会報の電子化をはかり、学会ホームページに掲載した。



## 2005(平成17)年度東海体育学研究セミナー報告

企画委員会 村瀬智彦

平成17年度の東海体育学研究セミナーは6月25日(土曜日)に南山大学において開催されました。平成16年度のテーマの「健康づくりの運動を科学する」を継続して、今回は「自然を活用して健康になる」をサブタイトルとした内容でありました。名古屋市立大学の穂丸武臣先生の司会により、日本福祉大学の松井健先生、皇學館大学の叶俊文先生、名城大学の富岡徹先生の3名の先生に講演いただきました。セミナーには、学会員に一般の方を含めた約40名の方が参加されました。各先生の発表の要旨は以下に示す通りであります。

### 「自然環境下で行う身体活動と運動強度」

松井 健(日本福祉大学)

登山、ハイキング、サイクリング、キャンプ、マリンスポーツおよびウィンタースポーツなどは、自然の影響と恩恵を強く受ける。これらの種目の主な特徴として、1回の活動時間が長い、自然環境に対する知識や安全対策が必要、活動場所までの移動を伴う、などの点が挙げられる。自然環境下で行うスポーツや運動は人々を日常の生活の場と切り離し、開放的にする。また、自然環境が持つ、視覚(木々の緑色:カラーセラピー)、嗅覚(森や土のにおい:アロマセラピー)、聴覚(鳥のさえずりや水のせせらぎ:音楽療法)などへの好影響が脳を刺激したり、気分を癒したりするなどの効果をもたらす。このような自然環境下で、楽しみながらスポーツや運動を行うことは、全身持久力、筋持久力、平衡性などの体力要素を維持・増進させることが期待でき、また、活動の継続性(動機付け)という点からも有用であると考えられる。

「ピクニック、ハイキング、野外散歩」ならびに「ジョギング、マラソン」は、人気が高く、中高年者にも人気がある種目である<sup>1)</sup>。運動強度の側面からも、自然を活用した健康づくり運動として期待できる。キャンプ活動は、概ね軽いウォーキング程度の強度であると考えられ、約4.7METs強度(1MET=3.5ml/kg/minのエネルギー消費量)と推定できる<sup>2)</sup>。キャンプのプログラムによっては、中等度の強度(心拍数120~140拍/分)で1時間程度運動する場面もあり、キャンプも健康づくり運動として活用することができる。登山は、9METsと高強度であり<sup>2)</sup>、行動時間が長いという特徴を持つ。遭難や滑落事

故の危険もあるため、事前のトレーニングや個々の体力レベルを配慮した、適切な運動強度と運動時間の配分が必要である。すなわち、急性高山病にかからぬよう、心拍数やRPEなどをモニターしながら無理なく登ることが肝要である。

自然環境下で運動を行うことは、様々な効果が期待できるが、一方では、環境の急変により体調の悪化やけがなどの危険性が高まるので、運動強度的にも、時間的にも余裕をもって行動することが重要であると考えられる。

### <参考文献>

- 1) 社会経済生産性本部 編: レジャー白書(2004) — グラン・ツーリズム もう一つの観光立国、社会経済生産性本部、東京、2004
- 2) McArdle WD, Katch FI, Katch VL: Exercise Physiology -Energy, Nutrition, and Human Performance- 5th edition, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2001

### 「心理学の側面からみた野外活動」

叶 俊文(皇學館大学社会福祉学部)

野外活動は野外教育の手段でもあり、目的にもなります。日本において野外教育は体験を通して五感に直接働きかける野外における教育、自然について総合的に学ぶ野外に関する教育、野外レクリエーション技術などを学ぶ野外のための教育、そして共同生活などでの社会教育として位置づけられています。近年では、これに加えて環境教育が含まれるようになってきています。

自然とのふれあいやグループワーク、共同生活などを通して、こうした教育が行われているわけですが、どのような効果がみられるのかを様々な視点から考えるのが今回のセミナーの位置づけになると考えられます。

そこで、子どもと大学生の心理的な側面から野外活動の様子をみていこうと思います。子どもの場合、野外活動によって自然への関心が高まることはもちろんですが、共同生活によりグループのメンバーへの働きかけができるようになったり、メンバーとの協力意識が高まる傾向がみられます。また、活動に積極的に取り組んでいく姿勢がみられるようになります。これは迫ってくる状況をグループワークによって解決していく過程によるものと思われる

ます。

大学生では先ず野外活動への知識と技術が身につくようですが、活動内容が少しハードになる分、他者や自分に対する信頼感を強めるようです。また、自然に対する意識と自然を大切に守っていかなければならないという意識が芽生える機会にもなっています。そして、生活力あるいは精神力がアップする傾向がみられます。活動後に今までの自分を反省したり、自分の方向性を認識するような報告が多くみられるようになります。これらのことは活動プログラムがどのように構成されているかにも左右されると思われますが、大学生が野外活動を通して、もう一度自分を見つめる、周りをみつめるためのきっかけを得ているのかもしれない。

このようにグループワークによる人間関係の理解と改善、精神的な鍛錬、そして活動後の満足感とそれに伴うリラクセスが野外活動を通してもたらされているように感じます。

最後に、自然に向かうためにはきっかけが必要に思います。そのきっかけを如何に作っていくのかが私たちの行わなければならないことのようにも感じています。

#### 「野山に親しむストックウォーキング」

富岡 徹(名城大学)

現在、ヨーロッパにおいてストックを持ったウォーキングが大流行しています。我が国ではあまり知られていませんが、フィンランドでは全国民の6割が経験したことがあるといわれるほどです。この運動方法は、「Nordic Walking」と言われていますが、我が国では、「ポールウォーキング」、「ノルディックウォーキング」などの呼び名がありますが、ここではストックを使ったウォーキングということで「ストックウォーキング」としました。

我が国でも、トレッキング時にストックを使われる方も少なくありません。いわゆる「杖」のように歩行の補助として使っています。ストックウォーキングでは、ストックを前方への推進力としても利用します。現在のストックウォーキング用ストックは、手の開閉を自由にできるストラップ形状のものが一般的です。これによって、前腕の緊張持続が防げるほか、手の開閉動作により血流へのポンプ作用が期待できます。

ストックウォーキングでは、上肢の筋群も運動に動員されます。したがって運動強度は増大(酸素摂取量で2~4割増加)します。しかし、上肢の筋群が運動に動員された結果、自覚的な運動強度(RPE)は低下します。同じスピードで同じ距離を歩いても、ストックを使用した方が楽に感じるわけですから、同じRPEではスピードが速くなります。しかし、自分では楽だと感じて、心臓などにとってはいつもより負荷が強くなっているわけですから、高齢者や日頃運動習慣のない人に対しては、注意が必要です。

ストックを持つことによって、通常のウォーキングでは得られない様々な効果が期待できます。先に述べた消費カロリーの増大(運動量の増加)や上肢筋群の動員のほか、ストックを上手に使うための調整力の向上が期待できます。また、ウォーキング時だけでなく、ストックで体重を支え安定し(自重を軽減させ)た姿勢でのストレッチングやスクワットなど運動のバリエーションを増やすことも出来ます。

ストックウォーキングは、野山を歩くのにとっても気持ちのいい運動です。また、ストックの先に石突ゴムを装着することにより街中での歩行も可能になります。今後ウォーキングの発展形としての普及が期待されます。

# 東海体育学会の意義議論の継続を ～第53回大会終了報告に代えて～

大会実行委員長:新井野洋一(愛知大学経済学部)

東海体育学会第53回大会は、愛知大学車道校舎を利用し、2005年10月30日(日)に開催いたしました。大会規模は、会員参加者110名、市民参加者20名、実行委員及び学生補助26名の合計156名でした。

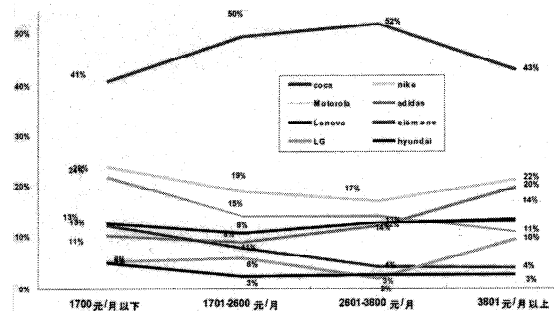
研究発表は、測定評価・体育社会学・発育発達関連演題8題、運動生理学・体育心理学・バイオメカニクス・体育方法関連演題8題、合計16題でした。研究発表の多くが、体育・スポーツ研究の重要な課題にかかわる内容であり、東海体育学会会員の学術レベルの高さを再確認することができました。座長の皆様には、急なご依頼にもかかわらずご承諾いただき、研究発表のスムーズな運営にご協力いただきありがとうございました。また、隔年に実施される学会役員選挙および定例総会についても、理事の皆様のご尽力により、予定の議事を進行できました。

シンポジウムは、「スポーツビジネス人材への期待と課題」をテーマに、3人のシンポジストをお招きして実施しました(司会:新井野)。現代スポーツが、ヒト・モノ・カネ・情報を資源とする経済活動(スポーツ文化ビジネス)として進展していることは疑う余地がありません。反面、スポーツ文化の産業化に対応したスポーツ組織の運営やスポーツ活動の企画、実践サポートなどを主導する人材すなわちスポーツビジネス人材の不足が叫ばれてきました。今回のシンポジウムのねらいは、スポーツビジネス人材の質的側面の論議を深化させることの重要性を確認することでした。以上の観点に立ってシンポジストのご報告をあらためて振り返れば、まさに示唆に富む内容でした。スポーツデザイン研究所代表取締役社長である上柿和生氏には「スポーツビジネス人材育成の企画、コンサルタントの視点から」と題してご報告いただいた。直接的にスポーツビジネス人材を問う場合には質的ポイントが重要であることを強調され、増加しつつある大学等でのスポーツビジネス人材の養成や育成のあり方、今後の方向について具体的な示唆や警鐘を示していただきました。OCEANS(欧迅体育文化語言句有限公司)社長である朱曉東氏には「中国スポーツマーケティングの将来展望の視点から」というテーマでご報告いただきました。朱氏には、中国スポーツマーケティングの最前線について貴重なデータを提供いただいたことにまずは感

謝したい(下表はその一例です)。また、3Mと3Cというわかりやすいスポーツビジネス人材の素養を提示いただいた。なかでも、社会的・人間的な能力(3C)のひとつとしたCommitmentの問題は、わが国のスポーツビジネスの現場においても大きな課題になると思われます。個人的なやる気と責任にとどまらずチームや会社として、そして業界として、スポーツ界としてのコミットメントが強く意識されたビジネス展開が求められているからです。最後に、「スポーツビジネス人材の大学教育の視点から」というテーマで順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科教授の北村薫氏にご報告いただいた。日本国民のスポーツ熱、若者のスポーツビジネス志向を逆手に取ったようなスポーツビジネス人材の量産という批判に対するいわば「裏の裏」とも思える論理を展開されました。シンポジストの皆様には、お礼と今後のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。(詳細は『愛知大学体育学論叢』第14号に研究ノートとして掲載いたしましたのでご参照ください)

朱曉東氏の報告資料の一部

表4:スポーツ協賛の販売への影響(収入による分類)



いかなる会合でも企画や準備、運営に際しては、多くの方々にお世話いただくものです。今回も、愛知大学の非常勤の先生方や広告掲載をお引き受けいただいた企業の皆様、開催費用をご援助いただいた愛知大学、事務職員の皆様に、感謝申し上げます。受付や研究発表会場の補助をしてくれた学生諸君には、特にお礼申し上げます。自己満足かもしれませんが、学生たちの態度はまさにスポーツマンらしく清々しいものでした。体育会系もすてたものじゃない。スポーツっていいな。と思わせてくれました。ありがとう。

最後に、苦言を申し添えたい。思えば、開催1年半ほ

ど前に、愛知大学を会場にすることを承諾しました。しかし、当時の理事会においては、学会大会の準備を進める一方で、存廃を含めた学会大会のあり方が議論されていました。開催会場の引き受け大学の問題、他の学会の開催時期との調整、研究発表題数の減少といったことにとどまらず、東海体育学会の存在意義や学会大会の存続にかかわってさまざまな意見が交わされました。学会が専門分化したことや研究業績の重みという点で口頭発表が低得点化していること、大学経営の観点から教員の行政的実務が増大して学会参加の時間的余裕を失っていること、地域社会に関する意識の変化といった背景があることは言うまでもありません。何となく無事に学会大会が終了すると、こういった議

論が消えていくのはいかにももったいないと思います。東海体育学会のあり方を考えることは、まさに学会を考えることであり、研究のあり方を考えることであり、研究者のあり方を考えることだからです。私事で恐縮ですが、新井野の年齢と学会大会回数は一致しています。妙な思い入れがあるのかもしれませんが、個人的には、本当に不必要なものは黙っていても消滅するはずであり、結論を急ぐ必要はないと思います。それに、新たな会や組織をつくることは昔も今もそんなに簡単なものではないでしょう。結論よりは、議論のプロセスに意味のあるテーマのように思われます。議論の継続を期待しております。

次回の学会大会の成功をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

## 東海体育学会 第54回大会のご案内

実行委員長 三井淳藏(岐阜聖徳学園大学)

### 東海体育学会第54回大会開催概要

- 【日 時】：2006年11月26日(日) 9:00受付開始  
【会 場】：岐阜聖徳学園大学 岐阜キャンパス  
【内 容】：研究発表、理事会、総会、特別講演、シンポジウム  
【研究発表申込み・抄録原稿受付〆切】：8月31日(木)まで  
【抄録原稿】：1000文字程度(抄録は文字のみとし、図表は入れない)  
【問い合わせおよび申込先】  
〒500-8288 岐阜市中鷲1-38 岐阜聖徳学園大学 春日研究室  
TEL&FAX 058-278-4160  
E-mail kasuga@shotoku.ac.jp(春日晃章まで)  
【その他】：詳細は学会ホームページを参照

この度、岐阜におきまして東海体育学会第54回大会をお引き受けすることになりました。私は、昭和41年体育学会会員として初めて大会に参加した頃を思い浮かべ、体育・スポーツ科学に関する研究領域、研究内容やそのレベルの高さ、深さに隔世の感を禁じ得ません。

今日のスポーツ界においては、競技技術の進歩および筋力トレーニングやplyometrics drillなどによる競技スピードの向上により著しく記録が更新されています。

平成24年には岐阜国体開催が予定され、各競技団体は競技力向上に向けた努力をスタートし始めています。そこで、今回の大会におきまして、『“競技力革命”—さらなる向上に向けたケアと戦略—』と題しまして一層の競技力の向上に役立てたいと考えております。

しかし、その反面、最近では子どもの体力低下が云々されています。私どもの調査ではスポーツなどをして遊ぶ子どもは、小学生27.0%、中学生12.0%と少なく、学校体育を含めて運動嫌いの小学生は17.3%、中学生21.9%となりました。しかも朝日新聞(2006.5.4)には、「子よ外で遊べ」を見出しに“9歳男児体力、20年前の女子並み”と大きく謳っています。子ども時代に運動することによって、体力的には筋力がよく発達し、感覚機能、反射運動機能も十分に発達し、さらに協応動作など複雑な運動能力を身に付け、身体的努力の過程においても理性も磨かれていくのではないのでしょうか。

本大会の一般研究発表、特別講演およびシンポジウムを通して、子どもからスポーツ選手、さらに高齢者に到るまでの体育・スポーツ科学の一層の発展を期し、多数の先生方のご参加をお待ちしております。



## 学術奨励賞を受賞して

研究題目「ジャンプトレーニングが骨に与える影響は年齢によって異なる」

本田 亜紀子（中京大学研究員）

この度は、東海体育学会学術奨励賞を頂き、誠にありがとうございました。このような賞を頂くのは初めてであり非常に嬉しかったと同時に、昨年度の授賞式では壇上で話をして下さいとのことで、とても緊張しそれどころではなかったことを覚えています。

今回は、若齢ラットと成熟ラットにジャンプトレーニングを行わせ、骨量や骨強度の増加に年齢の影響があるか否かについて検討し、発表しました。まず、ラットのジャンプトレーニング?と思われことでしょう。ラットが走っている姿は容易に想像できると思いますが、跳んでいる姿を想像できるでしょうか?他の学会でもどのようなものか、どうやって跳ばすのか等よく質問されますので、簡単に説明します。四方を板で囲った木枠を用意します。その中にラットを入れ、木枠の上の端を目指して跳び上がらせます(写真参考)。木枠の高さが50cm位までであればジャンプし、前脚でつかまってよじ登ることが可能です。最初の数日間は電気刺激を用いてジャンプさせますが、その後は床に置けば跳ぶ、ということを繰り返してくれます。さらに、1日に10回程度で十分な効果が期待できるので、トレーニングとしては非常に楽に、かつ短時間で終わらせることが出来ます。一言で言えば、ラットの骨量や骨強度を増加させるためには非常に効率の良いトレーニングである、ということです。

この研究から明らかとなったことは、骨に対するトレーニング効果は年をとってからでも十分得られるのですが、若い方がより高いということです。しかしいつも、ラットの40cmのジャンプはヒトではどの位に相当しますか?と聞かれ答えに困ります。基本的に、ラットとヒトでは骨格・構造が全く異なり、ラットでは自分の体長の高さを軽々とジャンプしますが、ヒトではそうはいきません。また、ヒトのジャンプでは、特別な機器を必要とせず簡単に行えるとい

う利点はあるのですが、高齢者には不向きなトレーニングとなってしまいます。今後は、ヒトへの応用について検討していくことが目下の課題となっております。

この実験を改めて振り返ってみますと、特に成熟ラットの飼育・管理は大変なものでした。10週齢程度で購入し、その後14ヶ月齢まで育てるにあたり、数が減ってしまったり、飲水用の飲み口のパッキンを何度も噛み切られて動物舎が水浸しになったり、温度調節が的確に出来なかったり、とにかく大変でした。長期間の実験の辛さを思い知らされました。しかし、さらに長期間かつ手のかかる実験を計画したがために、今となってはこの研究もそれほどの苦労ではなかったように思えてきました。今年になってその実験も終了し、現在はその分析に追われています。データが少しずつ増えていく喜びを感じながら、悪戦苦闘の毎日です。

最後となりましたが、実験や論文作成に当たりご指導頂いた中京大学教授梅村先生をはじめ、運動生理学研究室の皆様改めて感謝致します。また、査読の先生方には非常に貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。今後とも、ご指導のほど宜しくお願い致します。



## (学会紹介) アジア障害者体育・スポーツ学会

(Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise: <http://home.hiroshima-u.ac.jp/asape/>)

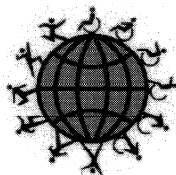
名古屋短期大学 寺田恭子

アジア障害者体育・スポーツ学会(以下ASAPE)は、アジア地域の障害者の体育・スポーツに関する科学的な研究の進歩と発展を図るため、1986年に設立されました(現学会長・Man-Whay Lin / National Taiwan Normal University)。現在の会員数は300名を越え、参加国は日本、中国、台湾、フィリピン、タイ、インド、インドネシア、イラク、イスラエル、サウジアラビアと広がっています。

国際会議は1989年に名古屋で開催された後、2年毎に開催されています。ASAPEの国際会議開催地は表1の通りです。また1996年より日本部会も開催され、現在

は医療体育研究会との合同大会を毎年開催しています。昨年は「第26回医療体育研究会/第9回アジア障害者体育・スポーツ学会日本部会・第7回合同大会」が東北学園文化大学で開催され、大会テーマは「アダプティッドスポーツの輪を広げよう!地域・学校・施設の連携を考える」でした。今年度の合同大会は2006年11月25(土)～26(日)に広島大学大学院教育学研究科で開催される予定です。

(合同大会問い合わせ先: [nanakida@hiroshima-u.ac.jp](mailto:nanakida@hiroshima-u.ac.jp))



(ASAPEのマーク)

表1 ASAPE国際会議開催地

第1回 名古屋 (日本、1989年)	第4回 ソウル (韓国、1996年)	第7回 香港 (中国、2002年)
第2回 宮崎 (日本、1991年)	第5回 つくば (日本、1998年)	第8回 ソウル (韓国、2004年)
第3回 台北 (台湾、1994年)	第6回 台北 (台湾、2000年)	第9回 長崎 (日本、2006年)

ASAPEは、アジアにおける障害者の体育・スポーツの実践および研究の支援活動を推進することはもちろん、障害者の体育・スポーツの国際的な動向をアジア諸国に紹介するなど国際的な連携も重視しています。加えてヨーロッパ、アジア、アメリカ等も含めた国際学会ISAP A (International Symposium Adapted Physical Activity) への参加も呼びかけています。

ASAPE日本部会は学術研究雑誌「障害者スポーツ科学」を発行(2003年・第1号発行)しています。これは障害者スポーツのみならず、体育学、教育学、福祉学、リハビリテーション医学など、様々な領域の研究を扱う、国内に例のない学術雑誌と言えます。

さて、今回は第9回アジア障害者体育・スポーツ学会が長崎の活水女子大学で開催されることになりました。以下が学会日程及びテーマ等です。“障害者体育・スポーツ”という響きが、まだなじみのない別の世界のもの

であるように感じていらっしゃる方もいるかと思います。しかし、学会誌のタイトルでもある「障害者スポーツ科学」とは、心身障害者だけを対象としたスポーツ科学ではなく、高齢者、妊婦などを含み、さらにはリハビリテーションにおける身体活動も含む Adapted Sport Scienceのことを意味しています。この学会紹介をお読みになり、一人でも多くの先生が本学会さらにはアダプティッド・スポーツの活動に目を向けて頂ければ幸いです。

### 第9回アジア障害者体育・スポーツ学会のお知らせ

(学会大会ホームページ<http://www.kwassui.ac.jp/~asape2006/>)

会期: 2006年8月1日(火)～3日(木)の3日間

会場: 活水女子大学東山手校舎(長崎市東山手町1-50)

大会テーマ 「アダプティッドスポーツの社会的貢献」

大会サブテーマ 「アジア障害者体育・スポーツ学会、

20年の歩みと展望」

主催：アジア障害者・スポーツ学会  
共催：活水女子大学、長崎国際観光コンベンション協会  
後援：長崎県、長崎市、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、長崎県社会福祉協議会  
大会実行委員長：柿山哲治（活水女子大学 ASAPE 理事）

公用語：英語

大会プログラム：基調講演、シンポジウム、カンツリーレポート、市民フォーラム、一般研究発表など（ウエルカムレセプション、フェアウエルパーティーあり）

#### 参加費：

	2006年3月1日以降
ASAPE会員	18,000円
非会員	20,000円
学生もしくは付添人	12,000円

参加費には、大会プログラム、昼食、懇親会費、参加証明書を含みます（但し、プロシーディングスは参加費に

含みません）。2006年2月28日までに登録された方のみ、Abstractをお送りいたします。それ以降に申し込まれた方は、大会当日会場でお受け取り下さい。なお、参加登録用紙をお持ちでない方は、Registration formをダウンロードして頂くか、大会事務局宛てにE-mail (asape2006@kwassui.ac.jp) でご請求下さい。

#### 参加費の支払方法

参加費の支払いは郵便振込のみで受付けます。振込用紙に必要な事項と金額を記入の上、下記の口座に振り込んで下さい。なお、振込み手数料は各自でご負担下さい。

種別：日本郵政公社 口座記号番号：01740-9-75006

加入者名：第9回ASAPE

第9回大会では、「アダプテッドスポーツの社会貢献」を大会テーマとして、心身障害者を対象とした研究だけではなく、高齢者、子ども、妊婦などを対象とし、さらにはリハビリテーションにおける身体活動を含むアダプテッドスポーツ科学にかかわる研究者、教育者、セラピスト、コーチ、学生といった幅広い分野からの参加をお待ちしています。

## (学会参加報告) アメリカと台湾、学会二題

中京大学 北川薫

8年ぶりにアメリカスポーツ医学会 (ACSM) にて発表してきました。今年は第53回でコロラド州のデンバーで5月31日から6月3日までの開催でした。デンバーは標高2000mほどの高地にあり、近くにはコロラド大学のあるボウルダーがあります。むしろボウルダーはマラソンの高橋尚子選手の高地トレーニングで有名かもしれません。また、デンバーの南にあるコロラドスプリングスにはアメリカオリンピックトレーニングセンターがあることもよくご存知かもしれません。また、デンバーの西に連なるロッキー山脈の一峰であるパイクスピークはアメリカ高所医学のメッカでもよく知られています。私がこの学会の会員になって30年余、評議員になって25年近くが経ちますが、質、量ともに本学会の向上発展ぶりには驚くばかりです。運動やスポーツについて世界でもっとも力のある団体であることは間違いありません。

今回の参加者数は6000人弱とのこと。日本人研究者もたくさん見られました。特に大学院生のような若者が目に付きました。私の時代と異なり、外国へ行くこと

が費用等の点で問題はなくなりましたから、時代は確かに変わりました。実感した代替わりについてはアメリカの研究者でも同じことで、私と同じくらいの年齢の“どこかで見た者”をも余り見かけませんでした。もちろん日本人ばかりでなくアジアでは韓国や台湾の若者も見かけましたし南米、豪州、ヨーロッパの研究者も多く、まさしくACSMは世界規模での学会となりました。私は指導学生の垂井彩未君（現、武庫川女子大学助手）が行なった、雨と風が走者に与える影響、について発表をしたのですが、まあまあ反応だったと自負しています。なお、彼女自身もこの大会に参加して日本人の若い研究者と交流しただけでなく、若い外国人研究者に接して大いに啓発されたと言っていました。運動に関するわが国の研究水準は決して低くはありませんが、外国の空気を吸うことで国内とは違う刺激を受けることは誠に結構なことと思います。

4日間の大会でしたが、記念講演が1、シンポジウムが68、一般発表やワークショップなどが290もありました。早

朝から夜まで行事はびっしりの予定となっており、学会発表について直接に見聞きできるのはほんの一部です。そこで個人の研究発表はポスターだけをみることにして、シンポジウムも限られたものだけを傍聴しました。面白かったのは、大蛇が獲物を飲み込んだときの酸素摂取量の話、少年少女の骨密度追跡研究の話、自転車競技の話です。なお、私は校務の関係で参加は6月1日までの二日間でした。片道、15時間ほどをかけた割には残念なことでした。したがって私の参会記も不十分な内容となってしまいましたがお許し下さい。現地に行ってみれば、名古屋市立大学の竹島先生、名古屋大学の片山先生をお見受けしましたので、もう少し詳しい情報が必要な方は連絡をとって見たら如何でしょうか。

今回、私が参加を決めた理由は、まとまってきた研究成果の発表が第一であることは言うまでもありませんが、親しくしてもらった友人に会いたいこともありました。今を去ること25年、私はカリフォルニア大学サンタバーバラ校の環境ストレス研究所員をしていたことがあります。その時の同僚で家族ともども親しくしてもらったのがPatty FreedsonとBill Byrnesです。よくテニスをしましたがなかなか勝てませんでした。現在、Pattyはマサチューセッツ大学アマースト校の教授で、このたびの選挙でACSMの副会長に選出されました。写真にあるように私ですら抱きしめられた時には骨が折るのではないかと心配になったほどの女丈夫です。参加者数も帰国後に彼女から知ったわけです。Billはコロラド大学教授で、その昔、彼が着任する時には途中のラスベガスまで我が家族は同行し、“ラスベガス銀行”に引き出し不可能な預金をしたことを思い出します。

学会の中身をお伝えするには不十分内容となってしまいました。私にとってはシミジミと感ずる学会参加でした。アメリカから帰国してからはシミジミと感ずる間もありません。6月24日開催の台湾運動生理学会(Taiwan Society of Exercise Physiology and Fitness)に招待され講演をしてきました。この学会の理事長をしている中国文化大学の林正常教授(前台湾師範大学、前体育学院教授)と通訳の黄彬彬前輔仁大学教授とは30年前からの友人であり、それが縁で何度も訪台してきました。今年は台湾第二の都市、高雄の正修科技大学にて開催されました。私の講演は中京大学運動生理学研究室の成果の紹介でしたが、そのほかには日本の体育学会、運動生理学会、体力医学会やバイオメカニクス学会と博士課程に関する話をしました。一方、お茶の席にて林教授から台湾、中国、香港、マカオが一緒になってアジア運動生理学会(?)を設立したとの話を聞きました。また、博士課程のある大学は国立台湾師範大学、国立体育学院および私立中国文化大学の3校とのことでした。大会の参加者は200人ほどでしたが、ほとんどが若い研究者でした。私の世代は結構深い人脈がありますが、これからは日本の若い研究者との積極的交流を含めて、改めてアジアでの連携を図ることが大切だと思っています。



## 生涯スポーツの教育・研究、その具現化と職域づくりをめざして

松井恒二(静岡大学教育学部・生涯教育課程・生涯スポーツ専攻)

### 静岡大学の生涯スポーツ専攻

静岡大学は、静岡市に教・人・農・理の4学部、80キロ程離れた浜松市に工・情の2学部をもつ、全学部学生数は9,500名を超える総合大学です。教育学部には約1700名の学部学生が所属し、約130名の専任教員がその教育・研究を支えています。学部は4つの課程からなり、学校教員養成課程(一学年定員260名)といわゆる0免として生涯教育課程(55名)、総合科学教育課程(45名)および芸術文化課程(40名)の3つの課程があります。生涯スポーツ専攻は生涯教育課程の中にあり、学生数としては一学年20名、1年から4年まで80名の大所帯になります。教員組織は講座制で、保健体育講座には15名の専任教員が所属していますが、そこからさらに、学校教育(保健体育)に8名、生涯スポーツに7名が分かれて所属しています。もちろん、専任教員は専門だけではなく、教養(共通)科目の保健体育科目(科目名:健康体育、スポーツ)なども担当していることは言うまでもありません。

### 生涯スポーツ専攻の学生の入口と出口

この数年間、生涯スポーツ専攻の志願者数をみると、教育学部のみならず静岡大学の中で最も受験倍率が高く、非常に人気が高い専攻であるということが出来ます。入試は内容を違えて推薦・前期・後期の3回に分けて行っていることから、体育・スポーツの分野に優れ、さまざまな意欲・能力を持つ学生が入学してきます。また、入学してくる学生全員が、将来、体育・スポーツに関わる分野の仕事に就きたいとの夢をもっていることは想像に難くありません。しかし、学生にとって、将来の進路のイメージといえば、多くは体育教員あるいはスポーツ指導者という発想でしかないのが現状です。現実問題として、生涯スポーツに関わる職域に目を向けたとき、非常に限られていることに気づかされます。これからは、スポーツ現象をもっと幅広くとらえ、潜在的なさまざまなスポーツ需要をビジネスチャンスとして、アントレプレナー(起業家)をめざす、というぐらいの発想が必要であるといえるでしょう。現代の社会において、体育・スポーツは意味ある重要なものとして強く認識されてきていることもあり、われわれに意欲、知識、能力、努力などがあれば、新たな職域を自ら作り出すことは十分可能となってきたといえます。

### 「生涯スポーツ研究」のフィールド

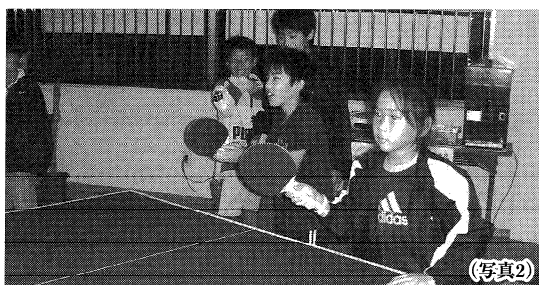
平成16(2004)年度に静岡大学で開催された第52回学会大会のシンポジウムでは、「体育スポーツの知をすべてのフィールドに」をテーマに、コーディネーター役の一端を担わせていただきました。ここでの「体育・スポーツの知」とはいわゆる科学知・立証知に当たるものですが、逆に「すべてのフィールド」は暗黙知・経験知の宝庫であるともいえます。このテーマ設定のきっかけは、「生涯スポーツ研究」のフィールドにもなっているNPO法人ピュアスポーツクラブ\*での活動からでした。

ピュアスポーツクラブは2000年6月に創設、同年11月にNPO法人としての認証を受けたこれまでにない全く新しい形態の総合型地域スポーツクラブです。このクラブの立ちあげの経緯や理念、あるいは活動内容、また組織作りや経営資源、経営実態などについてはこの稿の中では触れることができませんが、これまでいくつか、総合型スポーツクラブに関する書籍や雑誌の中に書かせていただきました\*\*。静大の卒業生や研究室の学生たちとともに立ち上げたこの活動も、早いもので6年の歳月が流れました。昨年の6月にはクラブハウス(写真1)を



(写真1)

大学の近くに移転し、事務局だけではなく、卓球台やエクササイズのためのマットなども常備してあります。意欲や能力のある学生の人的資源によって、フロアではダンススクールや、学習支援も行っています。(写真2)



(写真2)

また、今年度からの新たな試みとしては、地域の学校施設を借りて、自閉症の子供たちのサッカースクールなども開始しました。この稿をおこしている現在、FIFAワールドカップ™がドイツで開催されていますが、50インチの大型ビジョンによるパブリックビューイングなども開催しています。(写真3)



クラブハウス(愛称:ブルーエンジェル)の開放によって、スポーツを通して地域の人と学生との交流の機会も生まれてきつつあります。(写真4)



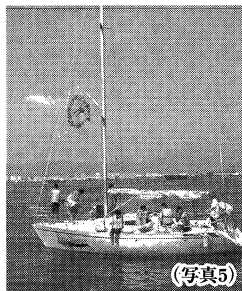
\*URL:<http://www.pure-sc.org/>

\*\*「NPO法人ピュアスポーツクラブの理念と活動」

『ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ』大修館(2002年)、「スポーツ・フォー・エブリワンにふさわしいスポーツ環境を」『みんなのスポーツ』日本体育社(2003年、11月号)など

#### フィールドから生み出されるもの

「生涯スポーツをもっと深く教えられようになりたい」という自分自身の強い思いがきっかけとなり立ち上げたクラブですが、現在では、いろいろな人のさまざまな新しい思いによりクラブが発展してきています。現在、正規雇用の常勤スタッフ3名をはじめ30歳以下を中心に本当に多くのスタッフがクラブを支えています。とりわけ、有償、無償を問わずボランティアスタッフには生涯スポーツ専攻の卒業生や学生だけではなく、専攻、学部を越えて、また、他大学の学生も参加し、これまでになかったスポーツの場を生み出す大きな力になっています。(写真5)




「コンビニのバイトよりピュアのボランティア」という学生も増えています。クラブの存在は、小さいながらも新たな職域づくりにもなり、また、学生の社会参加、研修、自己啓

発の場としての機能も果たしてきています。私自身にとっても、多世代、多目的、多目的なスポーツ指導の場は、優れた生きた教材であるということが出来ます。(写真6)

(写真6)

**学生ボランティア(招・せ)募集**

5月29日(日)と6月18日(土)  
星野チニスコートで子供たちとチニスをしませんか。



名古屋ワン・スルー・アスレティッククラブのボランティアで活動しています。  
各都道府県の「チニス教室」で子供たちとチニスと一緒に活動していただき  
ます。多世代・多目的な指導、指導の場、チニスに親しみながら活動  
が出来ます。ぜひご参加ください。子供たちとチニスを通しての交流の  
場です。

開催がある日(5月29日と6月18日)は、事前にご連絡下さい。ネットは  
レンタルいたします。

特定非営利活動法人(NPO法人)ピュアスポーツクラブ  
名古屋ワン・スルー・アスレティッククラブ(星野) 227-5223  
090-2184-9659(携帯)  
静岡市清水区星野1-1-1(星野) 090-8135-1004(携帯)

教育・研究に携わる立場からは、理論を生かす場と理論を作り出す場でもあり、また、この活動に携わって以来、スポーツ振興に関わる行政部門やさまざまな法人なども幅広く関わることになりました。国のスポーツ振興基本計画を受けての県や市の振興計画の立案、総合型地域スポーツクラブの育成、広域スポーツセンターの設置、スポーツ施設の指定管理者の選定、体協のクラブマネージャー養成、全国体育施設研究協議会、全国地域スポーツクラブサミット、スポーツNPOサミットなどへの参加は、スポーツにかかわるナレッジの集積に大きな役割を果たしてくれています。

#### 「体育・スポーツのノーマライゼーション」をめざして

このところ「ライフワークバランス社会\*\*\*」というキーワードを目にする機会が多くなりました。この言葉からは、健康、家庭生活、地域、自己啓発などさまざまな切り口により、生活全体と仕事との関係を新たに見直すことが意識されつつあると読み取ることができるでしょう。一生の時間資源が70万時間を超える人生80年の時代、健康で生き生きとした質の高い生活が模索される中、スポーツはその固有の意味や機能からメリット財として、人生を豊かにし、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の文化と表現されています。「スポーツの力」は社会の中でますます生かされなければならない時代になってきました。

静岡大学の生涯スポーツ専攻では、スポーツの文化的意義、社会的価値に目をむけ、スポーツ現象を幅広くとらえつつ、「体育・スポーツのノーマライゼーション」を合言葉に研究・教育を行っています。その中で、体育・スポーツの指導や経営・運営のリーダーとなるべき実践力のある学生を育て、社会に輩出できるよう、専任教員はそれぞれの分野で日々努力を重ね、また、皆一丸となり頑張っています。

\*\*\*大沢真知子『ワークライフバランス社会へ』岩波書店(2006年)

## 庶務委員会からのお知らせ

委員長 高橋義雄

### 1. 東海体育学会の新役員

平成17年10月30日(日)に愛知大学車道校舎で開催された学会大会において会長および理事が決定されました。新役員は以下の通りです。

氏名	役職	所属先名
寺田邦昭	会長	南山大学人文学部
池上康男	理事長	名古屋大学総合保健体育科学センター
石垣 享	学会○	愛知県立芸術大学
石田浩司	編集◎	名古屋大学総合保健体育科学センター
種田行男	編集	中京大学生命システム工学部
春日晃章	編集○	岐阜聖徳学園大学短期大学部
北川 薫	編集	中京大学体育学部
小林培男	学会◎	日本福祉大学福祉経営学部
斉藤 満	企画	豊田工業大学
酒井俊郎	広報	浜松学院大学短期大学部
庄司節子	企画	名古屋経済大学法学部
杉浦春雄	学会	岐阜薬科大学
高橋義雄	庶務◎	名古屋大学総合保健体育科学センター
坪田暢允	企画	名古屋学院大学経済学部
鶴原清志	編集	三重大学教育学部
中路恭平	会計◎	南山大学人文学部
秦 真人	編集	愛知学泉短期大学
藤井勝紀	企画◎	愛知工業大学
村瀬智彦	企画○	愛知大学法学部
八木規夫	広報	三重大学教育学部
山本英弘	広報○	朝日大学法学部
吉田和人	企画	静岡大学教育学部
吉田文久	編集	名古屋短期大学
來田享子	広報◎	中京大学体育学部
秋間 広	監事	名古屋大学総合保健体育科学センター
小澤教子	監事	名古屋女子大学
坂口俊哉	幹事	南山大学

(◎委員長、○副委員長)

### 2. 会員の消息(平成18年6月9日現在)

#### ※新入会員

朝内大輔(南山中学高等学校)  
 稲嶋修一郎(京都府立医科大学(法医学))  
 川西正志(鹿屋体育大学)  
 稲葉智彦

上田正子(愛知文教女子短期大学)  
 大石裕之(あさひ通り鍼灸整骨院)  
 北村尚浩(鹿屋体育大学)  
 金興烈(中京大学大学院)  
 木村健二(中京大学大学院)  
 葛原憲治(東邦学園大学)  
 権田瞳(中京大学体育研究所)  
 境田雅章(愛知学院大学)  
 清水美恵(名古屋市立植田小学校)  
 竹内高行(中京大学大学院)  
 出口順子(中京大学大学院)  
 道用亘(国立長寿医療センター研究所・疫学研究部)  
 中村和誉(愛知教育大学大学院)  
 宮嶋孝治(中京大学)  
 矢内利政(中京大学)  
 山田悠莉(中京女子大学大学院)  
 幸篤武(愛知教育大学大学院)  
 和光理奈(中京大学)  
 鈴木健之(愛知教育大学大学院)

#### ※転入会員

安達隆博(中京大学体育学部)  
 奥村真理  
 北田豊治(愛知学院大学)  
 工藤康宏(東海学園大学経営学部)  
 齊藤慎太郎(大同工業大学)  
 篠田知之(岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター)  
 高橋淳一郎(中京女子大学)  
 田中絵実(総合研究大学院大学(生理学研究所))  
 中馬健太郎  
 長谷川望(中京大学大学院)  
 藤井隆志  
 藤原寛康(岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター)  
 花井淑晃(国立長寿医療センター)



#### ※所属機関変更

中原かおり(株式会社クリエイティブライフサークル)  
横山竜矢(刈谷市立日高小学校)  
大石裕之(あさひ通り鍼灸整骨院)  
河島正弘(岐阜県教育委員会スポーツ課)  
杉浦義信(湖西市白須賀小学校)  
山本達三(愛知学泉大学)

#### ※苗字変更

苗字変更(旧姓 猪子)西村美佳(国士舘大学体育研究所)  
苗字変更(旧姓 谷村)宮田尚美

#### ※転出会員

大塚隆(東海大学)  
加藤雄一郎(産業技術総合研究所)  
佐藤耕平(日本女子体育大学基礎体力研究所)  
佐藤和  
高峰修(明治大学)  
松尾宣隆(長崎県立野崎養護学校)  
柳原大(東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系)  
加藤守匡(山形県立米沢女子短期大学健康栄養学科)  
李子紀代 転出及び苗字変更(旧姓 川井)

#### ※退会

金子謹吾  
前田勝  
加賀秀雄  
佐藤春彦  
柴田恵美子  
杉山和  
山下則之  
大塚三雄  
酒井恭高  
高山伸也  
谷浩充  
梅村信夫  
広瀬永康

寺本圭輔  
青山昌二  
鈴木真理  
砂田浩克  
奥村真理  
杉山正高  
二村良子  
深澤一也  
山本啓子  
井上千枝子  
武藤紀久  
水上博司

#### 3. 日本体育学会への登録・訂正等

日本体育学会会員の方は名簿に訂正箇所がありましたら、学会員名簿や体育学研究の折り込みの用紙を利用して、日本体育学会に訂正を依頼して頂きたいいたします。

東海体育学会のみの会員の方は東海体育学会事務局にお知らせください。

#### 4. 学会費の納入

日本体育学会会員の方は、預金口座振替による自動振込をご利用頂きたくお願いいたします。自動振込の申請用紙が必要な方は東海体育学会事務局にご請求ください。東海体育学会のみの会員の方は東海体育学会の郵便振替口座に年会費3,500円を納入ください。

#### 5. 東海体育学会事務局

東海体育学会に対するご意見、ご希望等ありましたらご連絡ください。

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18  
南山大学 体育学教室内 東海体育学会事務局  
TEL 052-832-3110(603)  
FAX 052-832-3703  
E-mail:tspe@htc.nagoya-u.ac.jp  
東海体育学会 郵便振替口座番号:00870-8-41336

## 編集後記

昨年開かれた総会での役員改選により、2006年1月から新たなメンバーによる東海体育学会の運営がはじまりました。会報を担当する広報委員会の手際が悪く、第79号のお届けが例年よりも少し遅くなってしまいました。会報編集に着手したのが遅かったにもかかわらず、前理事の方々や多くの会員の方に、迅速かつ内容の濃い原稿を頂戴することができ、本日の発行に至っています。お忙しい中、ご協力いただき本当にありがとうございました。

今号では、学会の会報であるという本誌の性格を考慮し、紙面の多くを割くことになりましたが、総会・理事会議事録をすべて掲載いたしました。近い将来60周年を迎えようとする東海体育学会の歩みの一步一步が、会報を通じて会員のみなさんに伝わるが大変重要だと考えております。

国際学会情報のページでは、会員の方々が国際的に活動しておられる場からの情報として、2つ

の記事をお寄せいただきました。一つは、8月に長崎での学会大会開催が予定されているアジア障害者体育・スポーツ学会の紹介です。もう一つは、5月末から6月3日に開催されたアメリカスポーツ医学会の参加報告で、帰国後すぐに執筆していただいた最新の情報です。また、研究室訪問のページでは、NPO法人としての認証を受けた総合型地域スポーツクラブと大学との連携を通じて、教育・研究が展開されている好事例を紹介していただきました。執筆の労をおとりいただいた方々に重ねてお礼申し上げます。

次号以降も会員の皆様の様々な情報を掲載したいと考えておりますので、情報のご提供をお願いいたします。最後に、本会報は株式会社ミニミニのご支援をいただきまして発行することができました。お礼申し上げます。

広報委員会委員長 来田享子

---

### 東海体育学会会報 No. 79

発行日 2006年6月1日      発行 東海体育学会      編集 広報委員会  
事務局 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 南山大学 体育学教室内 東海体育学会事務局  
TEL 052-832-3110 (603)      FAX 052-832-3703  
E-mail tspe@htc.nagoya-u.ac.jp  
ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/tspe/>

---